

原木乾シイタケ新品種の開発

【研究のポイント】

きのこグループでは、大分県の気象条件に対応した新品種開発の取り組みを進めており、令和5年9月に大分県育成品種9-46(仮称、出願登録名:大分林研き-2103)の品種登録出願を行いました。令和6年2月から生産現場においても種駒の利用が始まりました。

【研究の成果】

《開発の経緯》

平成25年に交配株を作出し、種菌メーカーと共同で一次選抜、二次選抜を実施した後、生産者による実用化検定試験を経て、令和5年9月に品種登録出願を行いました。

《9-46の特徴》

(1)発生パターン

秋・春に発生する品種です。

近年、夏の高温が長引き、多くの品種で秋の発生量が少なくなっていますが、本品種は秋から収穫が可能です。春は他品種と同様、気温上昇に伴い発生します(図-1)。

(2)形質

他品種に比べて大型肉厚で、2年目以降も小さくならない品種です(表-1)。

(3)形状

傘のふち部分の巻き込みが強く、冬菇から香信まで様々な品柄で収穫できる市場性の高い品種です(写真-1)。

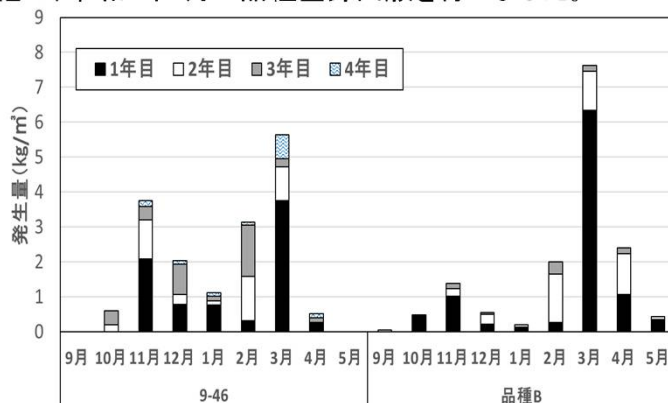


図-1 9-46と品種Bの月別発生量
(R2春接種、1~4年目)

表-1 発生1年目と発生2年目の平均個重(単位: g/個)

	9-46	品種A	品種B	品種C
発生1年目 (H30秋~R1春)	4.8 100%	4.2 100%	4.0 100%	5.9 100%
発生2年目 (R1秋~R2春)	4.6 96%※	3.6 86%※	3.0 75%※	4.3 73%※

※ 発生1年目に対する発生2年目平均個重の割合



写真-1 9-46(乾しいたけ)

【生産者の声】



講習会参加者の声

・近年は夏の高温の影響で秋子の発生量が少ない。春に集中発生する品種は色々あるが、秋にしっかり発生する品種を探していた。

・乾燥した実物を見せてもらったが、変形やバレ(下級品)も少なく、形質もしっかりしている。栽培する品種の一部に加えてみたい。

・小粒が多いと採取に時間がかかる。2年目になっても小さくならないのは労働力削減につながり魅力。

【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター林業研究部きのこグループきのこチーム
TEL: 0974-22-4236 (問い合わせは企画指導担当へ)
住所: 大分県豊後大野市三重町赤嶺2369